

(様式なし)

平成26年度

学生募集要項

大学院看護学研究科看護学専攻(修士課程)



新潟県立看護大学

目 次

I 入学者選抜要項

1	入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）	1
2	募集人員	1
3	出願資格	1
4	出願前の手続	2
5	出願手続	4
6	選抜方法等	7
7	合格発表	9
8	試験成績の開示	9

II 入学手続、初年度納付金

1	入学手続	10
2	初年度納付金	11

III 本学研究科（修士課程）の特色

1	科目構成群と看護専門分野	12
2	専門看護師（CNS）教育課程	12
3	社会人の就学	12
4	長期履修制度	13
5	授業科目	14
6	講義等の内容	15
7	専任教員	29

IV その他

1	試験会場略図	34
2	合格発表場所、入学手続場所案内図	35

I 入学者選抜要項

1 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

新潟県立看護大学大学院では、次のような学生を求めます。

新潟県立看護大学大学院アドミッション・ポリシー

地域貢献：地域社会で保健・医療・福祉の向上における貢献を目指す人

専門性：看護の専門性に基づいた高度な知識と卓越した看護実践能力を修得しようとする人

研究：看護実践から生じた課題を深く探究する明確な意志がある人

指導性：教育・研究・看護実践活動にリーダーとして貢献する意志がある人

2 募集人員

入学者の選抜は、8月入試と2月入試の2回実施する予定ですが、8月入試において定員に達した場合は、2月入試は実施しません。

研究科名	専攻名	課程名	募集人員	
			8月入試	2月入試
看護学研究科	看護学専攻	修士課程	15名	

3 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 学校教育法第83条に定める大学を卒業した者及び平成26年3月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者及び平成26年3月31日までに授与される見込みの者
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者及び平成26年3月31日までに修了見込みの者
- (4) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び平成26年3月31日までに修了見込みの者
- (5) 大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められる文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (6) 本大学院において個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達した者

(注1) (6)の資格により出願しようとする者は、事前に本大学院の「出願資格審査」を受けることが必要です。審査で出願資格を有していると認定された場合、(6)の資格による出願ができます。

この「出願資格審査」の審査基準は、以下のとおりです。

次のア又はイに該当すること

- ア 大学に3年以上在学し、又は外国において学校教育における15年の課程を修了した者で、英語のレベルが実用英語技能検定2級(TOEFL(CBT)155点、TOEIC470点、その他同等)以上の実力を有する者
- イ 短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校の卒業(修了)者で、看護師、保健師、助産師のいずれかの資格を有しており、かつ、次の①から③のうち少なくとも1つに該当する者
- ① 看護師、保健師、助産師のいずれかの資格取得後、資格者としての実務経験が5年以上あるか、あるいは看護師長等の職位の経験がある者
 - ② 研修学校(厚生労働省、看護協会、都道府県などの公的機関又はそれに匹敵する機関の研修学校)における6ヶ月以上の看護教員養成課程等又は継続教育課程を修了している者
 - ③ 英語のレベルが実用英語技能検定2級(TOEFL(CBT)155点、TOEIC470点、その他同等)以上の実力を有する者

(注2) 注1の出願資格(6)に係る「出願資格審査」の手続は、次の4出願前の手続(2)により行ってください。

4 出願前の手続

(1) 事前面談(対象者…出願する者全員)

出願を希望する者は、出願前に入学後の研究等について、希望する分野の教員と面談することが必要です。

事前面談を申し込むときは平日の午前9時から午後5時までの時間内に、事務局教務学生課教務係(TEL 025-526-2811)に連絡し、面談を希望する教員(研究指導教員)の氏名と連絡先を伝えてください(後述の「授業科目」、「講義等の内容」及び「専任教員」を参照してください)。

折り返し研究科長が連絡し、出願を希望する者と協議の上、面談する教員を決定します。その後、教員が連絡を取り面談日を決定します。

事前面談には、本冊子添付の「出願書類様式」A票、E票及びF票を記入の上、持参してください。これをもとに面談を行います(A票、E票及びF票は、面談後お返しします)。

なお、事前面談の期間は次のとおりです。

● 事前面談期間

【8月入試】平成25年6月10日(月)から7月12日(金)まで

※ 申込みは、平成25年6月5日(水)から受付けます。

【2月入試】平成25年11月7日(木)から12月10日(火)まで

※ 申込みは、平成25年11月1日(金)から受付けます。

(2) 出願資格審査 (対象者…1ページの3出願資格(6)により出願する者)

1ページの3出願資格(6)により出願する者は、出願前に個別の入学資格審査により認定を受ける必要がありますので、出願資格審査の申請を必ずしてください。

① 出願資格審査申請の時期及び方法

前述の事前面談時に、面談相手の教員へ申請書類を提出してください。

② 出願資格審査申請書類

書 類	作 成 方 法 等
入学試験出願資格認定申請書 〈出願資格審査を申請する者〉	本学所定の様式に必要事項をもれなく記入して提出してください。
在籍期間証明書 〈出願資格審査基準 「ア」該当で申請する者〉	在籍した(している)機関の直属の長による証明書を提出してください。
卒業(修了)証明書 〈出願資格審査基準 「イ」該当で申請する者〉	免許資格取得に係る出身学校長による証明書を提出してください。
免許証(状)の写し 〈出願資格審査基準 「イ」該当で申請する者〉	看護師、保健師、助産師の資格のうち、取得している全ての免許証(状)の写し(A4サイズに縮小コピーし、 <u>原本証明*したもの</u>)を提出してください。
在職期間証明書 〈出願資格審査基準 「イ」の①該当で申請する者〉	本学所定の様式に記入したものを提出してください。ただし、1施設(機関)で在職期間が基準(5年以上)に満たない場合、様式をコピーして複数の施設(機関)から証明を受け、基準を満たすことが証明できる枚数を提出してください。
その他の証明書 〈出願資格審査基準 「ア」及び 「イ」の②又は③該当で申請する者〉	英検、TOEFL、TOEIC、研修、継続教育の各実施機関が発行する証明書であって基準を満たすことが証明できるものを提出してください。

※ 原本証明とは、原本とその写しを一緒に保健所へ持参し、その写しに保健所職員の職名・氏名で「原本の内容に相違ない」旨を直接記入(証明)されたものをいいます。

(注1) 〈 〉内は該当書類の提出対象者です。

(注2) 各種証明書と現在の氏名が不一致の場合は、改姓等を証明する書類(戸籍抄本等)を添付してください。

③ 審査結果の通知

申請時に面談相手の教員が書類の内容等を確認します。正式な審査結果は、郵送で本人あてに通知します。

なお、8月入試の場合は7月19日(金)までに、2月入試の場合は12月20日(金)までに通知が届かない場合は、至急、教務学生課までお問い合わせください。

5 出願手続

(1) 出願期間

【8月入試】 平成25年7月22日(月)から8月2日(金)まで

【2月入試】 平成26年1月6日(月)から1月17日(金)まで

※ 出願受付期限は、最終日の午後5時(必着)です。郵送する場合は所要日数を十分考慮して出願してください。

(2) 出願方法

出願書類を一括して所定の出願用封筒に入れ、郵送又は直接持参により手続きを行ってください。

- ① 郵送により出願する場合は、「書留速達郵便」とし、**郵送にかかる日数を十分考慮して発送してください(最終日の午後5時必着)**。
- ② 直接持参の場合の受付時間は、平日の午前9時から午後5時までとします(土・日曜日及び祝日は受け付けません)。

(3) 出願先

〒943-0147 新潟県上越市新南町240番地
新潟県立看護大学 教務学生課 教務係
電話番号 025-526-2811

(4) 出願書類

本学所定の様式のもの。「8月入試用」と「2月入試用」の2種類がありますので、書類作成の際、間違えないよう十分注意してください。

書 類		作 成 方 法 等
A票	志願票	必要事項をもれなく記入してください。
B票	写真票	必要事項をもれなく記入してください。 写真（縦4cm×横3cm、上半身正面、無帽、無背景で出願前3ヶ月以内に撮影したもの、白黒可）の裏面に氏名、生年月日を記入の上、写真貼付欄にはがれないよう、全面のり付けしてください。
C票	受験票	
D票	入学考査料 納付確認票	必要事項をもれなく記入してください。 所定の欄に、取扱銀行（ゆうちょ銀行を除く。）の収納印を受けた「入学考査料納付証明書」を添付してください。
入学考査料 30,000円		「振込依頼書（新潟県立看護大学入学考査料）・振込金及び手数料領収書（志願者保存）・入学考査料納付証明書（大学提出用）」に必要事項を記入し、出願期間の1週間前から出願期間最終日までの間に、最寄りの取扱銀行（ゆうちょ銀行を除く。）に持参し、窓口で振り込んでください。なお、ATM（現金自動預払機）は利用できません。 振込手数料は志願者本人の負担となります。 振り込み後、「振込金及び手数料領収書（志願者保存）」及び「入学考査料納付証明書（大学提出用）」を受け取り、取扱銀行（ゆうちょ銀行を除く。）の収納印が押印されていることを確認してください。 依頼人氏名欄は、必ず志願者本人の氏名を記入してください。 取扱銀行受付期間 【8月入試】 平成25年7月16日(火)から8月2日(金)まで 【2月入試】 平成25年12月30日(月)から平成26年1月17日(金)まで
E票	経歴書	必要事項をもれなく記入してください。
F票	志願理由書	必要事項をもれなく記入してください。

書 類		作 成 方 法 等
G票 〈長期履修 制度の適用 希望者〉	長期履修 申請書	必要事項をもれなく記入してください。 ※ 長期履修制度の適用を希望する場合、提出してください。 ※ 長期履修制度の詳細については、13ページの4長期履修制度をご覧ください。
H票	受験票返送 封筒	受験票返送先の住所、氏名、郵便番号を明記し、380円分の切手を貼付してください(印刷してある「様」は消さないでください)。
出願用封筒		住所、氏名等必要事項を記入し、「書留速達郵便」で郵送又は直接持参してください。

本学所定の様式以外のもの。〈 〉内は、当該書類の提出対象者。

書 類	作 成 方 法 等
卒業（修了）証明書又は卒業（修了）見込証明書 〈出願資格（1）に該当の者〉	出身大学の学長又は学部長が作成したものを提出してください。
学士の学位授与（見込）証明書 〈出願資格（2）に該当の者〉	学位授与機構が発行する学士の学位授与（見込）証明書を提出してください。 なお、見込みの場合は学位授与後、改めて証明書を提出していただきます。
その他の証明書 〈出願資格（3）又は（4）又は（5）に該当の者〉	該当する資格を証明する書類を提出してください。

※ 1ページの3出願資格（6）に該当として出願資格審査を受け、資格を有すると認定された者は資格に関する証明書は提出済みです。

（注1） A票～H票の各書類及び出願用封筒は、本冊子に添付しています。万一、落丁等がありましたら4ページの（3）出願先へ連絡してください。

（注2） 各種証明書と現在の氏名が不一致の場合は、改姓等を証明する書類（戸籍抄本等）を添付してください。

(5) 出願上の注意事項

- ① 出願書類が全て揃っていない場合には受付できませんので、出願の際には十分確認してください。
- ② 出願書類のB～D票は切り離さないでください。
- ③ 出願受付後には、出願事項の変更は認められません。ただし、住所、氏名、電話番号に変更があった場合には、出願先まで連絡してください。
- ④ 入学を許可した後であっても、出願書類の記載事項と相違する事実が発見された場合、入学の許可を取り消すことがあります。
- ⑤ 試験日の5日前までに受験票が届かない場合には、出願先まで問い合わせてください。
- ⑥ 一度受付をした出願書類及び入学考査料は、返却いたしません。
- ⑦ 記載方法等について、ご不明な点等がありましたら出願先へ連絡してください。

6 選抜方法等

(1) 入学者選抜方法

入学者の選抜は、筆記試験（英語、看護専門科目）、面接試験及び提出書類の内容を総合して判定します。

(2) 試験期日・試験会場

	試験期日	試験会場
8月入試	平成25年8月29日(木)	新潟県立看護大学 (新潟県上越市新南町240番地)
2月入試	平成26年2月3日(月)	

(注) 8月入試において定員に達した場合は、2月入試は実施しません。

(3) 試験時間割

	試験科目	試験時間
1	英語	9:30 ~ 10:30
2	看護専門科目	11:00 ~ 12:00
3	面接	13:00 ~

(4) 試験科目

① 英語

看護関連の英文の読解

※ 英語の辞書1冊持ち込み可（電子辞書は不可）

② 看護専門科目

出題範囲は、看護学全般です。

③ 面接

現在に至る看護教育や研修又は実務の中で体得した看護の学理、大学院で学びたい分野及び関心のある研究テーマなど

(5) 配点

試験科目	配点
英 語	100点
看護専門科目	100点
面 接	100点

(6) 受験上の注意事項

- ① 試験会場へは午前8時30分から入場できます。受験者は、午前9時までに指定された試験室に入室してください。
- ② 受験者本人以外は試験室には入室できません。
- ③ 英語の試験開始後、20分以内の試験室入室に限り受験を認めますが、試験時間の延長は認めません。
- ④ 試験会場では、係員等の指示に従ってください。
- ⑤ 当日は、「受験票」、「HBの黒鉛筆（シャープペンシル可）」、「消しゴム」を必ず持参してください。
- ⑥ 筆記試験時間中に使用を許可する物品は、「HBの黒鉛筆（シャープペンシル可）」、「消しゴム」、「鉛筆削り」、「時計（計時機能のみのもの）」としますが、英語の試験については英語の辞書1冊の使用を許可します。ただし、電子辞書は不可。
- ⑦ 試験時間内における受験者間の物品の貸借は一切認めません。
- ⑧ 当日、受験票を忘れた者は、係員等の指示に従い、受験票の再交付を受けてください。また、受験票は、入学手続きの際に必要となりますので、試験後も大切に保管してください。
- ⑨ 試験会場では携帯電話等の音の出る機器は必ず電源を切り、鞆等にしまってください。身につけたり、机の上に置くことは禁止します（時計として使用することも不可）。
- ⑩ 試験会場では昼食の販売は行いませんので、各自で準備してください。
- ⑪ 内履きは必要ありません。
- ⑫ 試験会場及びその周辺で合格電報等の受付を行う者がいても、本学とは一切関係なく、トラブル等が生じて責任を負えないので注意してください。

7 合格発表

(1) 発表期日

【8月入試】 平成25年9月10日（火） 午前10時

【2月入試】 平成26年2月10日（月） 午前10時

(2) 発表方法

新潟県立看護大学の正面玄関に合格者の受験番号を掲示するとともに、合格者に合格通知書を送付します（不合格者には通知しません）。なお、電話による問い合わせには一切応じません。

※ 発表後、準備ができ次第、本学のホームページに「合格者受験番号一覧表」を掲載する予定です。

8 試験成績の開示

(1) 開示の内容

この試験の結果について、筆記試験（英語、看護専門科目）及び面接試験の合計得点及び順位の開示を請求することができます。

(2) 開示の手続

受験者（本人に限ります）が受験票又は合格通知書を持参の上、開示場所にて口頭で開示請求してください（電話等による請求では開示できません）。

① 開示期間（合格発表の日から1ヶ月間）

【8月入試】 平成25年9月10日（火）から10月9日（水）まで

【2月入試】 平成26年2月10日（月）から3月7日（金）まで

土・日曜日及び祝日を除く午前9時から午後4時まで（ただし、正午から午後1時までは除く）

② 開示場所

新潟県立看護大学 事務局

Ⅱ 入学手続、初年度納付金

1 入学手続

(1) 入学手続期間

【8月入試】 平成25年9月11日（水）から9月24日（火）まで

【2月入試】 平成26年2月12日（水）から2月21日（金）まで

※ 入学手続期限は、最終日の午後5時（必着）です。郵送する場合は所要日数を十分考慮して出願してください。

(2) 入学手続方法

- ① 入学手続の際には、誓約書、保証書、受験票、写真（縦4cm×横3cm）等の書類が必要です（入学手続の詳細については、合格通知書送付時にお知らせします）。
- ② 手続書類の提出は、「書留速達郵便」又は「直接持参」により行ってください。直接持参の受付時間は、平日の午前9時から午後5時までとし、土・日曜日及び祝日の受付は行いません。
- ③ 入学手続を完了した者には、後日、その旨を通知します。

(3) 入学手続先

〒943-0147 新潟県上越市新南町240番地

新潟県立看護大学 教務学生課 教務係

電話番号 025-526-2811

(4) 入学手続上の注意事項

- ① 入学手続期間内に手続を完了しなかった者については、入学を辞退したものと取り扱います。
- ② 入学料及び必要な書類が全て揃っていない場合には受付できませんので、書類提出の際には十分確認してください。また、入学手続期間を過ぎて到着したものは、受付できませんので、郵送の場合には、所要日数を十分に考慮して発送してください。
- ③ 一度受付をした入学料及び入学手続書類は返却しません。

2 初年度納付金

(1) 入学料

入学手続の際には、下記の入学料を納付する必要があります。

区 分	金 額	備 考
入 学 料	新潟県内者	282,000円 次のいずれかに該当する者 ① 学者本人が、平成25年1月1日から引き続き、新潟県内の市町村に住民登録されている者 ② 入学者の配偶者又は一親等の親族が、平成25年1月1日から引き続き、新潟県内の市町村に住民登録されている者
	その他	564,000円 上記以外の者

(注1) 新潟県内者については、県内者であることを確認するため、入学手続時に「住民票」等の証明書類を提出していただきます。

(注2) 上記入学料の金額は、平成25年4月1日現在のものです。入学料の改定が行われた場合、改定時から新しい入学料の額を適用します。

(2) 授業料

区 分	金 額	備 考
授 業 料	修業年限2年 年額 535,800円	前期分 5月末までに納付 後期分 11月末までに納付 ※ 年額を、2回に分けて納付するもの
	修業年限3年 年額 357,200円	上記と同じ

(注1) 修業年限3年の長期履修を希望する場合は、出願時に申請を行い、許可を受けることが必要です。

(注2) 上記授業料の金額は、平成25年4月1日現在のものです。授業料の改定が行われた場合、改定時から新しい授業料の額を適用します。

(3) その他の経費

日本看護学校協議会共済会総合補償制度保険料、テキスト購入費、実習経費（実費）などが別途必要になります。

Ⅲ 本学研究科（修士課程）の特色

1 科目構成群と看護専門分野

本大学院の授業科目は、「基盤看護分野」、「共通基盤分野」、「専門分野」の3分野から成ります。

「基盤看護分野」は、5科目から構成され、専門的な看護実践能力を養うために、いずれの専門分野においても基盤となる科目をおいています。

「共通基盤分野」は、10科目から構成され、幅広い見識を身につけ、学際的な視野に立って看護の実践に活かせる科目をおいています。

「専門分野」は、「看護管理学」、「基礎看護学」、「母性看護学」、「小児看護学」、「成人看護学」、「がん看護学」、「老年看護学」、「精神看護学」、「地域看護学」の9領域から成り、それぞれ4～8の講義科目や演習科目をおいています。各領域における課題について、各自の関心に沿って学習し、理論的、実践的な学びを深めます。

2 専門看護師（CNS）教育課程

次の専門分野については、専門看護師（CNS）の資格取得に対応できる内容の科目を配置しています。

本研究科では、専門看護師受験資格を得るための教育機関として、平成20年度に「がん看護」と「地域看護」の教育課程の認定を受けました。また、平成24年度からは「老年看護」の教育課程を開始しています（平成25年度に一般社団法人日本看護系大学協議会による教育課程の認定を受ける予定）。

専門分野	→	専門看護師（CNS）資格
「がん看護学」	→	【がん看護】
「地域看護学」	→	【地域看護】
「老年看護学」	→	【老人看護】

3 社会人の就学

大学院設置基準第14条では、教育方法の特例により夜間その他の特定の時間又は時期において授業や研究指導を行うことができるとされています。

本大学院では、社会人の方にも就学しやすい環境を提供するため、教育方法の特例を適用して授業を行います。

なお、在職のまま入学を予定している場合は、出願の時点から勤務先所属長の承諾を得ておいてください（合格の場合、入学手続時に改めて勤務先の「就学承諾書」の提出が必要となります）。

4 長期履修制度

職業を有している等の事情により、標準修業年限の2年では大学院の教育課程の履修が困難な方については、修業年限を3年とする長期履修制度を設けています。

この制度の適用を受けるには、次の(1)から(3)のいずれかに該当することが必要となります。

- (1) 職業（正規職員以外も含む）を有しており、標準修業年限での修了が困難なこと
- (2) 育児、長期介護等の事情があり、標準修業年限での修了が困難なこと
- (3) その他やむを得ない事情があり、標準修業年限での修了が困難なこと

(注1) 長期履修を望む場合は、出願時に申請を行い、許可を受けることが必要です。

なお、入学後の申請は原則としてできませんので注意してください。

(注2) この制度の適用を受けた場合の授業料については、標準修業年限（2年）の方が2年間で納める授業料と同じ額を、3年間で納めればよいこととなります。

(注3) 長期履修期間の延長はできません。

5 授業科目 (平成25年4月1日現在)

授業科目の名称等		セメスター	単位数		単位の構成			時間数	CNS		
			必修	選択	講義	演習	実習		がん	老年	地域
基盤看護分野	看護学研究法	1~2	2			2		60	○	○	○
	看護理論	1	2		2			30	○	○	○
	看護倫理特論	1	2		2			30	○	○	○
	文献講読	1		1		1		30			
	看護情報統計学	1~2		2	1	1		45			○
共通基盤分野	病態治療学	2		1	1			15	○		
	運動機能障害学特論	2		1	1			15			
	形態機能学特論	2		1	1			15			
	疫学	2		1	1			15			
	人類学特論	2		1	1			15			
	対人関係特論	2		1	1			15			
	家族関係特論	2		1	1			15			
	健康社会学	2		1	1			15			
看護教育学	2		2	2			30				
看護政策論	1		2	2			30	○	○	○	
専門分野	看護管理学特論	1		1	1			15			
	看護管理学援助論Ⅰ	1~2		2	2			30			
	看護管理学援助論Ⅱ	1~2		2	2			30			
	看護管理学特別演習	2		2		2		60			
	基礎看護学特論	1		1	1			15			
	基礎看護学援助論Ⅰ	1~2		2	2			30			
	基礎看護学援助論Ⅱ	1~2		2	2			30			
	基礎看護学特別演習	2		2		2		60			
	母性看護学特論	1		1	1			15			
	母性看護学援助論Ⅰ	1~2		2	2			30			
	母性看護学援助論Ⅱ	1~2		2	2			30			
	母性看護学特別演習	2		2		2		60			
	小児看護学特論	1		1	1			15			
	小児看護学援助論Ⅰ	1~2		2	2			30			
	小児看護学援助論Ⅱ	1~2		2	2			30			
	小児看護学特別演習	2		2		2		60			
	成人看護学特論	1		1	1			15			
	成人看護学援助論Ⅰ	1~2		2	2			30			
	成人看護学援助論Ⅱ	1~2		2	2			30			
	成人看護学特別演習	2		2		2		60			
	がん看護学	がん看護学方法論一特論Ⅰ	1		1	1			15	○	
	がん看護学	がん看護学特論Ⅱ	1		2	2			30	○	
	がん看護学	がん看護学特論Ⅲ	1~2		2	2			30	○	
	がん看護学	がん看護学援助展開論Ⅰ	1~2		2	2			45	○	
	がん看護学	がん看護学援助展開論Ⅱ	1~2		2	1	1		45	○	
	がん看護学	がん看護学特別演習Ⅰ一演習Ⅰ	2		1		1		30	○	
	がん看護学	がん看護学演習Ⅱ	2		2		2		60	○	
	がん看護学	がん看護学演習Ⅲ	2		2		2		60	○	
老年看護学	老年看護学特論Ⅰ	1		2	2			30		○	
老年看護学	老年看護学特論Ⅱ	1		2	2			30		○	
老年看護学	老年看護学特論Ⅲ(在宅ケア提供組織活動論)	1		2	2			30		○	
老年看護学	老年看護学特論Ⅳ(老年看護学援助展開論)	1		2	2			30		○	
老年看護学	老年看護学特別演習Ⅰ	2		2		2		30	○		
老年看護学	老年看護学特別演習Ⅱ	2		2		2		30	○		
精神看護学	精神看護学特論	1		1	1			15			
精神看護学	精神看護学援助論Ⅰ	1~2		2	2			30			
精神看護学	精神看護学援助論Ⅱ	1~2		2	2			30			
精神看護学	精神看護学特別演習	2		2		2		60			
地域看護学	地域看護学方法論	1		2	2			30		○	
地域看護学	地域看護学援助展開論	1~2		2	1	1		45		○	
地域看護学	学校保健・養護教育展開論	2		1	1			15		○	
地域看護学	産業看護学展開論	2		1	1			15		○	
地域看護学	地域看護学特別演習Ⅰ	2		2		2		60		○	
地域看護学	地域看護学特別演習Ⅱ	3		2		2		60		○	
	専門分野別課題実習(がんCNSⅠ)	2	2				2	60	○		
	専門分野別課題実習(がんCNSⅡ)	3~4	4				4	120	○		
	専門分野別課題実習(老年CNSⅠ)	3~4	2				2	60		○	
	専門分野別課題実習(老年CNSⅡ)	3~4	2				2	60		○	
	専門分野別課題実習(老年CNSⅢ)	3~4	2				2	60		○	
	専門分野別課題実習(地域CNS)	2~4	6				6	180		○	
	専門分野別課題研究(がんCNS)	3~4	2					180	○		
	専門分野別課題研究(老年CNS)	3~4	2					180		○	
	専門分野別課題研究(地域CNS)	3~4	2					180		○	
	看護学領域特別研究	3~4	6								

注：CNS欄の「○」は専門看護師教育課程履修者の必修科目

6 講義等の内容 (平成25年4月1日現在)

【基盤看護分野】

授 業 科 目 名	講 義 等 の 内 容
看護学研究法	<p>基本的な研究デザインとその基盤となる前提や科学的推論方法を学び、特に看護科学における特性を理解する。看護学研究における基本的研究方法である質的研究と量的研究及び両者の統合について具体的に学習する。また、哲学的前提、方法論的基礎、データ特性、一般化の限界、研究計画の立案、倫理的配慮について理解するとともに、研究者としての基本的責任及び態度を養う。</p>
看護理論	<p>看護の歴史とその社会的な位置づけをふまえ、看護学の主要概念、理論について、それらに密接に関連する諸領域の理論及びその科学哲学的な前提から理解し、看護学の体系化に寄与する能力を養う。</p> <p>理論と呼ばれる著作は他の著作物とどう違うのか、その違いはどこからくるのかなどを、科学固有の学問特性との関連で述べる。また理論と実践との関係について、理論の種類も視野におきつつ論ずる。さらに現存する看護理論のいくつかをとりあげ、その生成過程をたどり、かつまたそれらの理論をどのように読むかを議論する。</p>
看護倫理特論	<p>看護実践領域における倫理的意志決定に必要な、倫理的感受性と道徳的推論能力を養い、倫理的意志決定を活性化させることについて考えを深める。そのためには倫理学の系譜、伝統的倫理学と近代的倫理学の価値対立及び統合についても考察する。また看護における価値と看護倫理の形成過程、倫理原則、倫理と法律ならびに看護実践における倫理的意志決定モデルについて理解を深めながら、自律した看護職のあり方についても検討する。</p>
文献講読	<p>看護学研究を遂行するにあたり必要な研究文献を系統的に検索し、クリティークする力を養うことを目的とする。特に研究の信頼性及び妥当性をふまえて、研究成果の看護学への有用性を批判的に検討する。看護学研究の世界的動向をふまえて、各自の看護研究テーマを位置づけるために、信頼性妥当性の高い英文及び和文の講読を中心にすすめる。</p>
看護情報統計学	<p>看護研究及び看護実践に必要な基本的な統計的分析の理論を理解するとともに、各自の課題研究での数量の取扱いに関する実践的分析能力を養う。</p> <p>加えて、修士論文等の技術も学ぶ。具体的には、(1)大規模な文書の作成管理技法、編集技術、(2)表・グラフ作成方法の正しい挿入方法とその配置方等、(3)索引、参考文献の管理方法等を学ぶ。</p>

【共通基盤分野】

授 業 科 目 名	講 義 等 の 内 容
病態治療学	<p>がん発生のメカニズムと治療について概説したうえで、分子標的薬や重粒子線治療などの最新の治療について講義及び討論を行う。また、近年では補完代替療法の併用を希望する患者さんも多く、がんの補完代替療法に関する正確な情報提供が求められている。補完代替療法は医療の現場で用いるにはエビデンスが不足していることが多く積極的に用いることは難しいが、患者さんに正確な情報を提供するために、現在行われているがんの補完代替療法について文献を収集しながら検証し、補完代替医療を行う利益について考察する。</p>
運動機能障害学特論	<p>運動器は骨・関節・筋より構成されるが、これら構成器官の障害により当然ながら運動機能は障害を受ける。また筋を支配する末梢神経・中枢神経が様々な形で障害を受けることによっても運動機能が障害される。このような様々な運動機能障害の原因が人体に及ぼす影響やその評価法も多岐にわたる。これらを、最高中枢である脳の障害と脊髄・運動器の障害の2つに分けてそれぞれの障害の特徴・評価法・治療法について学ぶ。</p>
形態機能学特論	<p>人間の成長と発達過程のすべてにおいて、自立した健康的な生活を援助するため、また疾病を抱えた人々を支え最大限の機能を引き出す援助をするためには、人体の構造と機能の知識に基づいたケアを実践しなければならない。なかでも神経系はすべての人間活動に関係した重要な器官系であり、近年の神経科学の発展には目を見張るものがある。形態機能学特論では、主として脳神経・脊髄神経・自律神経系を含むいわゆる末梢神経系の構造と機能について学び、その知識を看護ケアの実践に如何に結び付けていくかを探求する。</p>
疫学	<p>実践的な疫学の知識を得ることを目的とする。広くは衛生・公衆衛生学的な面からの種々の疾患や問題に対する予防・制御法を含む活動計画と評価法の実施能力をも身につける。疾病や健康障害の発生要因として特に問題になっている新興・再興感染においては、ウイルスや細菌などの生物学的要因、温暖化や栄養問題などの要因、さらには社会学的要因を解析し、それらの相互の関連を理解する。さらには、見方を広げ、問題のグローバル化から地域保健と国際保健との関連を理解するなど幅広い問題に触れる。</p>
人類学特論	<p>原始古代の出土資料（化石人骨及び古人骨）に現れた各種の疾病痕、また古人骨の形態学的特徴を対象とし、病理学や疫学的手法を用いて、当時の衛生環境、寿命、人口動態、食性、疾病構造などを推論する分析的アプローチを学ぶ。このような人類の疾病史を理解することにより、過去の時代をきたた人々が、どう疾病と向き合い疾病を受け入れてきたのかが理解できる。さらには過去との対比において現代医療を考察し、現代医療さらには未来の医療とはどうあるべきかについて、批判的かつ発展的に検討する能力を養う。</p>

【共通基盤分野】

授 業 科 目 名	講 義 等 の 内 容
対人関係特論	健康障害からの回復や健康障害をもった生活、そしてヘルス・プロモーションに関し、「対人関係」がすべてにポジティブにもネガティブにも影響をおよぼす。特に看護という対人援助における「共感」の適切な理解と具体的な対応、「こころ」と「からだ」のむすびつきの再検討、チームでのかかわりに関し、自らの実践や経験を振り返りながら、理論的理解を深める。
家族関係特論	家族の問題に関するクライアントからの訴えや相談について、面接者の立場から、傾聴し、クライアントの悩みや困惑感を受容するための、カウンセリング技法の知識や技術の基礎を修得することを目標とする。受講者を小グループに分け演習を行う。その際に、擬似的な面接場面を設定し、テーマに沿ったマイクロカウンセリング技法の知識を提示し、ロールプレイなどを用いてカウンセリング技術の演習を行う。
健康社会学	人々の健康とその規定要因、保健医療制度と医療・ケアの行為は、国家、地域社会、家族や個人に固有な文化的、社会経済的状況と密接に関連している。それゆえ、社会学の分野でも、看護、医学、医療、健康現象はホットトピックであり、多数の研究がなされている。この授業では、まず最初に、実証主義社会学の基礎となる考え方と、研究方法論について講義と資料講読により確認する。その後、看護研究の分野にも影響を与えた社会学の文献のなかから重要文献を1点読み、実証主義社会学の考え方を、健康現象についての研究に援用するための基礎を身につける練習をする。科目等履修生の受講も歓迎する。
看護教育学	看護教育学に関する基本的な原理、教育制度、日本及び世界の看護教育の歴史、教育内容の変遷、具体的かつ実践的看護教育方法について多角的に学習する。また、発展的に看護専門職として育つために有効な教育課程・教育方法・教育内容の精選についての理解を深めながら、現在の看護教育の現状のなかで生じている課題について議論し、知や技の伝承のあり方について探究する。
看護政策論	日本における医療政策・看護政策の歴史的変遷、諸外国との国際比較等に関する学習を行いながら、看護に関わる政策の決定プロセスの重要性について理解し、看護政策の課題を考察し、看護政策提言に寄与する実証的研究と実践の方略を探求する。

【専門分野】

授 業 科 目 名	講 義 等 の 内 容
看護管理学特論	<p>看護管理を行ううえでは、社会のニーズや制度・システムの影響を受け、変化せざるをえない事態がある。反面、社会の制度・システムに働きかけることによって、現状の課題解決や質の改善をはかることも可能である。いずれの局面にあっても、看護管理にかかる哲学や倫理感を基礎に据えながら将来を見据えた意思決定と、継続的・合理的であるとともに柔軟な解決の手法を修得することが重要となる。ここでは、さまざまな社会・文化・システムのなかでの健康や医療のとらえ方の変化と差異を通して、改善にむけての組織化・制度化、マネジメントのあり方について理解を深める。</p>
看護管理学援助論 I	<p>地域に存在する施設や団体・機関には何が期待されるかの分析が必要であり、その分析やミッションを基礎に、組織は継続的・合理的な組織管理を実現していかなければならない。分析は、組織内と周辺の分析をしながらミッションの意味づけを深く思考した看護管理者としての行動が求められる。組織としてのマーケティングや経営分析、ガバナンス、人材育成、組織文化の醸成、質管理などを共に実行しながら参画していくなかで、看護管理者には看護の質を保障する責務がある。ここでは、組織のなかで効果的に参画・実現するために必要な手法の基礎を理解する。</p>
看護管理学援助論 II	<p>看護の質を保障することについて具体化するためには、看護管理者としての役割や責務の認識を精練させなければならない。保健医療看護の提供においては人材が要である。保健医療看護の提供においては安全管理やクライシスコントロールは欠かせないが、これをコントロールするのも人材である。サービスを提供する対象者やチームでの人間関係の良否や働く場の環境・システムの良否は、安全の確保や個々人のやりがい感、モチベーションの維持を大きく左右する。これら看護管理者に必要な考えや手法を洗練させる。</p>
看護管理学特別演習	<p>看護管理者としての役割や責務について、看護管理の理論や研究結果を活用しながら練り上げるとともに、看護管理実践への適用について検討する。そのなかで看護管理上の課題を明確にし、課題解決にむけての探求を行う。</p>
基礎看護学特論	<p>ナイチンゲールの「看護覚え書」を精読し、自らの看護実践と結びつけながら、看護観、人間観、健康観、生活観等の概念について理解を深め、看護の本質について考察する。</p>
基礎看護学援助論 I	<p>看護技術・技能の本質を考察すると共に、科学的検証をふまえた技術の洗練過程について理解する。看護技術及び実践力の本質を考察する中から、科学的検証のあり方や展望について考察する。</p>

【専門分野】

授 業 科 目 名	講 義 等 の 内 容
基礎看護学援助論Ⅱ	看護実践や看護教育における自らの課題を明らかにすること、及び臨床指導、新人教育等における指導過程を評価する方法を理解する。さらに、指導力を高めるための方法について議論や教育実践を通して学ぶ。
基礎看護学特別演習	基礎看護学特論及び援助論等で学んだ知識をもとに、看護実践について学生個々の関心領域に応じて学習を深める。自らの関心テーマについて、関連文献の講読及び議論を重ねながら、研究課題の洗練化を図る。
母性看護学特論	ライフ・サイクルにある母子とその家族の特性及び現象を理解するための概念や理論を深める。これらの概念や理論を基盤として母性看護の特性を踏まえた看護実践への活用方法を探求する。
母性看護学援助論Ⅰ	母性看護に関連する理論や看護援助方法の学びから、周産期における母子とその家族の健康に関する問題を解決するための方法論を学び、効果的に支援するためのアセスメントの方法を修得する。さらに、周産期にある母子とその家族の健康問題と課題解決のために必要な諸理論を基盤として、看護介入モデルを探究する。
母性看護学援助論Ⅱ	母性看護の対象である母子とその家族の持つ問題、リプロダクティブ・ヘルス／ライツ、倫理的諸問題などについて、母性看護に必要な援助方法を学習し、自己の母性看護実践能力を高めることができるとともに、実践的な看護基盤をつくる。
母性看護学特別演習	母性看護学特論で学んだ概念や理論をもとに、学生個々の関心領域に応じて学習を深める。自らの関心テーマについてのフィールドワークを通して、実践的な視点から研究課題の洗練化を図り、修士論文に取り組む基盤を作る。
小児看護学特論	未定
小児看護学援助論Ⅰ	未定
小児看護学援助論Ⅱ	未定
小児看護学特別演習	未定

【専門分野】

授 業 科 目 名	講 義 等 の 内 容
成人看護学特論	成人期にある人々の健康問題とその背景を学ぶ。さらに、成人期にある患者とその家族に対する看護に適用される基本概念や諸理論を理解し、急性期から回復期、慢性期にかけての看護支援のあり方を探求する。
成人看護学援助論Ⅰ	様々な健康レベルにある成人期患者への看護支援における研究の動向と課題について理解を深める。これらの知見を活用し、リハビリテーション看護、周手術期看護、慢性疾患看護の各領域におけるエビデンスに基づいたケア実践を探求する。
成人看護学援助論Ⅱ	成人期にある人々の身体、心理、社会的特性と包括的なヘルスアセスメントの基本的方法を学ぶ。また、急性期、回復期、慢性期にある成人患者に適用される保健・医療・福祉のサポートシステムのあり方、ケア実践における倫理的問題について理解を深め、成人看護を実践していくうえでの基礎的能力を養う。
成人看護学特別演習	成人看護学特論及び援助論で学んだ知識をもとに、疾病や障害とともに生きる成人期患者の看護実践について学生個々の関心領域に応じて学習を深める。自らの関心テーマについてのフィールドワークを通して、実践的な視点から研究課題の洗練化を図り、修士論文に取り組む基盤を作る。
がん看護学方法論－特論Ⅰ	<p>専門的ながん看護を行っていくうえで基盤となる概念、主要理論ならびにその看護介入モデルの活用について探求する。</p> <p>がん患者を取り巻く社会状況の動向や臨床アプローチの発展、及びがん看護・緩和ケア領域の実践研究・教育の歴史的背景と動向について検討する。加えて包括的かつ、戦略的に独自の役割を開拓する能力を養う。</p>
がん看護学特論Ⅱ	<p>がんにより苦痛を体験している人々及び家族の特徴について、理解を深めるための基盤となる理論を探求する。</p> <p>がんにより苦痛を体験している人々及び家族を全人的に理解するための主要概念と理論について修得する。同時に関連する実践・研究・教育について探求する。</p>
がん看護学特論Ⅲ	<p>がんの多様な病態に対処するための病態生理及び治療の基本的知識に基づき、高度のフィジカルアセスメントと看護アセスメント、これらに基づく適切、効果的ながん看護、緩和ケアを実践する方法を探求する。</p> <p>がん看護、特に緩和ケアにおける最新の専門技術を実践していくために、予防、診断、病態生理、治療（手術療法・リハビリテーション・化学療法・造血幹細胞移植・放射線療法・代替療法・相補療法・薬物療法）過程における病態を理解する。高度の専門的な知見を得て高度の援助技術の展開へと関連付ける。</p>

【専門分野】

授 業 科 目 名	講 義 等 の 内 容
がん看護援助展開論Ⅰ	<p>病態生理と最新の知見をふまえて、病名、予後告知・治療の選択等、診断治療に伴うアセスメント、援助技術を探求する。同時に複雑で困難ながん性疼痛を全人的に捉えて、薬物療法、代替・相補療法等、緩和のための高度な援助技術について、その役割展開の看護モデルを構築する能力を養う。</p> <p>講義1単位、演習1単位、学内での講義、文献検討、プレゼンテーション、さらになん看護・治療の専門実践者から、臨床現場での授業展開等、効果的に時間帯を調整して進める。</p>
がん看護援助展開論Ⅱ	<p>がんがもたらすあらゆる複雑で対処困難な苦悩を緩和するために、薬物療法や代替・相補療法を含めて創意工夫を凝らすと共に、がん患者と家族についての心理社会的、霊的な援助法を理解し、展開する能力を養う。病態生理と再診の知見をふまえて、緩和ケアの基礎となる概念と、病名、予後告知・治療の選択等、診断治療に伴う援助法及び症状緩和について、アセスメント、実践、分析できる専門的な援助技術を修得する。</p>
がん看護学特別演習Ⅰ－演習Ⅰ	<p>がんがもたらすあらゆる苦痛症状（疼痛など）及び苦悩を緩和する－緩和ケアの概念を理解し、倫理的なアセスメントと効果的な援助技術を実践的に展開する能力を養う。苦痛に対する薬物療法をはじめ、放射線療法、化学療法、外科的対処療法にかかわる緩和ケアの最新の知見を修得する。</p> <p>がん看護・緩和ケアのアセスメント・援助技術、終末期ケアにおけるQOL、緩和ケアにおける外科的対処療法の実際、セルフケアの概念と課題、放射線診断、薬物療法等について探求する。学内、臨床現場でのプレゼンテーション、討議、演習を進め課題研究の視点を養う。</p>
がん看護学演習Ⅱ	<p>予防、早期対処、早期発見、治療の継続及び治療中・治療後を含めて生活の質を高める心理的、社会的・霊的緩和を探求する。緩和ケアにおける看護援助モデルの構築と、薬物療法や代替・相補療法等を用い、援助に創意工夫を凝らす。緩和ケアの援助技術としてコミュニケーションスキルにおける傾聴・共感を焦点に、納得のいく、自己を肯定受容できる最終段階の援助法について、研究的視点で高度に専門化したケアモデルを探求する。</p> <p>最新の診断、コミュニケーションスキルについて、学内、臨床現場でのプレゼンテーション、討議、演習を進め課題研究の視点を養う。</p>

【専門分野】

授 業 科 目 名	講 義 等 の 内 容
がん看護学演習Ⅲ	<p>地域における緩和ケアの専門的機能と役割、及びチームケアについて分析評価し、多職種との連携の中で看護独自の専門的役割を実践モデルで理論的な構築をする。在宅におけるがん患者のサバイバーシップ、家族支援と倫理社会的側面について探求する。</p> <p>地域と連携したチームの中での緩和ケアにおける看護の専門的機能と役割の評価、がん患者のサバイバーシップにおける家族支援と心理社会的支援、及び倫理的ジレンマについて分析評価し、新しい展開を探求する。</p> <p>クリーティング、実践家との討議、プレゼンテーション等で実践的な学習を展開する。</p>
老年看護学特論Ⅰ	<p>高齢者の健康生活上のニーズの査定に用いられる総合的機能評価の枠組みと評価方法を修得する。また、高齢者に対するフィジカルアセスメントの技法を修得する。</p> <p>講義及びプレゼンテーションに討論を交え、フィジカルアセスメントは演習により学習を展開する。</p>
老年看護学特論Ⅱ	<p>高齢者の健康を維持・増進するアプローチの理論と実践について学習する。高齢者に多くみられる健康障害に関してエビデンスに基づく効果的援助方法を探究する。自立やセルフケア支援、生活の質向上を目指した看護援助方法について考察を深める。高齢者の服薬管理に関する知識を得る。また、家族介護者が抱える問題の把握とその援助方法について探究する。</p> <p>講義及びプレゼンテーションに討論を交えながら学習を展開する。</p>
老年看護学特論Ⅲ (在宅ケア提供組織活動論)	<p>高齢者の健康生活を支えるシステム・制度を理解し、在宅療養高齢者・家族（独居・老夫婦世帯家族、認知症高齢者、難病療養者などを含む）を対象とするアセスメント、ケアプラン、ケアマネジメント、社会資源利用等に関するケア提供方法を学習する。家族ケア理論を学習し、家族アセスメント、家族支援について理解を深める。また、高齢者の在宅ケアに関連する施設・事業所・行政機関との連携、及びケアに関わる多職種との連携のあり方、コンサルテーションの対応、倫理的意決定のためのアプローチについて検討する。</p> <p>講義及びプレゼンテーションに討論を交えながら学習を展開する。</p>

【専門分野】

授 業 科 目 名	講 義 等 の 内 容
老年看護学特論Ⅳ (老年看護援助展開論)	<p>老人の保健医療福祉制度・政策・看護政策の動向(日本・海外)について検討し、高齢者医療・介護に関わるマンパワーの現状と育成の動向を知り、介護職との協働・連携の実態と課題について検討する。治療や療養の場における看護・介護サービス提供上の課題、介護家族のかかえる諸問題を把握し、組織的・政策的アプローチを含む解決の方略を探求する。</p> <p>受講生によるプレゼンテーションと討論を中心に学習を展開する。</p>
老年看護学特別演習Ⅰ	<p>病院・介護施設に入院・入所高齢者の複雑な健康・生活上の問題解決に対応する老年看護専門看護師としての実践能力を養う。フィールドワークや実践家との討論を通して、老年看護専門看護師に求められる相談、調整、倫理的調整、スタッフ教育の役割について検討する。また、この分野の実践的研究課題について探究する。</p>
老年看護学特別演習Ⅱ	<p>認知症の疫学、診断と治療・療法に関する最新の知見を理解する。認知症の多様なアセスメント方法を修得し、認知症の進行抑止、行動障害の予防・緩和、ならびに発症から死に至るまでの心身の回復や安寧に貢献する看護実践、生活環境の調整、介護家族やスタッフに対する相談、尊厳を守り倫理的意思決定に対応できる能力を養う。認知症ケアに関連する地域活動への参加や実践家との討論を通して、老年看護専門看護師の役割、課題について検討する。さらに、この分野の実践的研究課題について探究する。</p>
精神看護学特論	<p>精神の健康状態に影響する社会的背景、及びそれによって起こる様々なメンタルヘルスの諸問題、精神疾患の発症に伴う精神症状、身体疾患を発症した患者の精神的状態について学ぶとともに、それらに関する研究の動向を検討する。また、これらの学習を基盤とし、基本的な精神看護の理論活用と、看護援助の方法を探究する。</p>
精神看護学援助論Ⅰ	<p>精神看護の治療に関連する諸理論、精神保健福祉の歴史的変遷及び精神保健福祉システムなど、精神看護学に関連する諸理論を、精神看護実践への適用の観点から検討し、それによって精神看護の探究に必要な基盤を作る。また、精神看護学領域の研究成果を、精神看護実践への適用の観点から探究する。</p>
精神看護学援助論Ⅱ	<p>治療的関わりを的確に行う観点からメンタルヘルスの問題を抱える人への援助方法、精神疾患を病む人への援助方法を探究する。また、自己の対人関係パターンの評価、精神看護の援助方法の効果など、現存の評価方法、開発されているツールにもとづいて、精神看護学における具体的な援助方法を探究し、学習を深める。これらを基盤に、精神看護学領域の研究成果を、精神看護実践への適用の観点から論述する。</p>

【専門分野】

授 業 科 目 名	講 義 等 の 内 容
精神看護学特別演習	<p>精神看護学における具体的な看護実践についての理解を深め、具体的な援助技術の適用可能性を探究する。リエゾン精神看護の実践、多職種の治療的関わりなどを、既存の研究成果や精神医療の実際の現場を通して理解を深める。それによって各自の関心のある精神看護の分野について探究する基礎を作る。</p>
地域看護学方法論	<p>地域看護学の特徴である、一定の環境を共有する人々を対象とした看護学方法を、理論活用に基づいて学習する。自然環境や社会・文化的環境に影響を受ける健康課題を生活の中から読みとぎ、国際比較をふまえて地域看護学アプローチを採求する。</p>
地域看護援助展開論	<p>コミュニティを単位とした看護過程の展開として、ニーズ分析、看護介入プログラム開発と評価方法、システムの形成、ネットワーク等により、個人・家族・集団への看護サービスの展開方法と技術開発を学ぶ。看護情報学に基づく情報管理、リーダーシップ技法、ケアの質管理を通して、行政地域看護援助を中心にエビデンスの構築と活用を採求する。</p>
学校保健・養護教育展開論	<p>学校保健のしくみを知り、子どもや教職員の健康実態から課題を把握して、その課題を解決していくための基本的な視点と技術を理解する。</p> <p>学校保健が果たしてきた役割を知り、子どもや教職員の健康実態から今日の健康課題を把握し、優れた活動事例を通して、実践を展開していく視点を学ぶ。特に養護教諭の仕事に注目する。</p>
産業看護展開論	<p>産業保健・産業看護活動を推進するうえで基礎となる、さまざまな知識、具体的には産業活動と環境保全、労働の身体的・心理的負担、産業看護における人間工学の考え方と実際の適用方法についての成因と予防対策などについて学ぶ。ITなどの労働形態の変化した現代社会の働く人々と健康の特徴及び課題について整理し、企業文化をふまえて産業看護における看護過程の展開と看護技術開発を採求する。長年にわたる産業保健・産業介護活動の実践的データに基づき、労働の安全と健康、企業における健康管理、及び産業看護の今日的課題を展開する。</p>
地域看護学特別演習 I	<p>展開論で学んだ地域看護の専門性を深め、高度な実践能力、倫理的判断能力、教育的能力、コンサルテーション能力、他職種との連携・調整能力、研究能力を形成し強化するための実践演習を行う。特に、地域看護学特別演習 I では、学生が自ら研究テーマを地域看護学実践の現象の中に採求し、学内外での地域看護学実践演習を通して、実践的研究課題を見出すプロセスに重点をおき、修士論文に反映させられるような基盤づくりを行う。</p>

【専門分野】

授 業 科 目 名	講 義 等 の 内 容
地域看護学特別演習Ⅱ	<p>地域看護学特別演習Ⅰにより焦点が絞られてきた学生各自の実践的研究課題への取り組みを通して、より具体的に高度な実践能力、倫理的判断能力、教育的能力、コンサルテーション能力、他職種との連携・調整能力、研究能力を強化するための実践演習を継続して行う。修士論文にむけて、実践演習により検証された看護現象に対して地域看護学の視点から研究することにより、修士論文の作成へとつなげる。</p>
専門分野別課題実習 (地域CNS)	<p>地域看護学の、方法論と援助展開論及び特別演習Ⅰ・Ⅱの学習を統合して、地域看護学の中の行政看護(地域を単位とした看護)を中心に、専門看護師として必要な高度の実践能力を養う。同時に専門看護師の6つの役割(卓越した実践、教育、相談、連絡調整、研究、倫理的問題の調整)を強化開発する能力を修得する。</p> <p>地域を単位とした看護実践の場の中で、地方型、都市型の保健行政機関において、行政看護のエキスパートのスーパービジョンのもとに、ケアシステム、ケア方法、計画と評価、ケアの運営や管理についてさらに理解を深める。あわせて関連分野の産業看護と連携して実習を行う。</p>
専門分野別課題研究 (地域CNS)	<p>地域看護方法論、援助展開論、特別演習Ⅰ・Ⅱで修得した倫理及び原則を基盤にして、地域看護学における専門的な知識や技術を深めるための実践的研究課題に取り組み、論文として作成する。</p> <p>研究課題は、地域看護実践に寄与する課題選定の論理的な根拠、概念枠組み、文献検討を十分に行い、研究方法の選択、結果及び考察における、専門看護師の視点を明確にする。</p>
専門分野別課題実習 (がんCNS)	<p>がん患者のQOL向上に資するために、方法論と援助展開論及び特別演習Ⅰ・Ⅱの学習を統合して、がん看護・緩和ケアを中心に、専門看護師として必要な高度の実践能力を養う。同時に専門看護師の6つの役割(卓越した実践、教育、相談、連絡調整、研究、倫理的問題の調整)を強化開発する能力を修得する。</p> <p>がん専門病院において、がん専門看護師のスーパービジョンのもとに2単位のCNS役割実習と4単位のがん看護・緩和ケアの実践実習を行う。</p>
専門分野別課題研究 (がんCNS)	<p>がん性苦悩の緩和をはじめ、がんによって起こるあらゆる苦痛を全体的に捉え、緩和するための、薬物ががん患者のQOLの向上に資するために、方法論と援助展開論、特別演習Ⅰ・Ⅱで修得した理論を基盤にして、がん看護・緩和ケアにおける専門的な知識や技術を深めるための研究課題を、研究的アプローチに基づいて、論文あるいは成果物として作成する。</p> <p>研究課題については、看護実践に寄与する課題選定の論理的な根拠、アセスメント、ケアガイドライン、援助技術の開発等の課題開発のプロセスを明確にする。</p>

【専門分野】

授 業 科 目 名	講 義 等 の 内 容
<p>専門分野別課題実習 (老年CNS)</p>	<p>老年看護学特論と演習で学んだ理論、知識、技術を統合して、老人看護専門看護師に必要な高度な実践能力を養う。実習Ⅰは病院における看護実習、実習Ⅱは認知症高齢者の看護実習で、それぞれ指導教員の指導計画により、複雑で対応の難しい高齢者を受け持ち、看護過程を展開、3例以上のケースレポートを作成する。また、臨床の指導者(専門看護師、看護師長、看護部長)とともに、組織的な看護活動、スタッフ教育、相談、調整、倫理調整を体験してレポートを作成する。実習Ⅲは訪問看護利用の高齢者を対象とする実習で、在宅療養の老人看護に対する課題をもって実習に臨み、看護体験を踏まえたうえで課題レポートを作成する。</p>
<p>専門分野別課題研究 (老年CNS)</p>	<p>老年看護学特論、老年看護学演習、老年看護学専門分野別課題実習の学習を基盤に老年看護学における実践的研究課題に取り組み、論文として作成する。研究課題は、老年看護実践に寄与する課題選定の論理的な根拠、概念枠組み、文献検討を十分に行い、研究方法の選択、結果及び考察における、専門看護師の視点を明確にする。</p>
<p>看護学領域特別研究</p>	<p>1、2年次の講義・演習の成果を前提にして研究指導教員(サポートする教員のあるときはその教員を含む)が担当して開く。各専門分野について配列する。大学院生による研究報告をめぐって、教員、学生による討論などを含め修士論文作成に至る一連のプロセスに関して指導する。</p> <p>(加城貴美子教授) 母子看護学特別演習の研究成果をふまえ、修士論文作成を指導する。研究テーマの設定、文献の検索、研究方法については、個人指導を実施する。研究発表を反復することによって、研究の精度と深度を深め、添削指導を通して、研究能力を身につけ、批判に十分耐えうる修士論文の完成がはかれるように配慮する。</p> <p>(石田和子教授) がん患者・家族の心理的適応と効果的な介入法・看護管理・教育・支援に関する課題、化学療法を受ける患者・家族の症状マネジメントと対処方法・セルフケアに関する課題、がん終末期患者・家族に関する課題を指導する。がん看護学に関する研究課題を設定し、研究計画書の立案、データ収集と分析、研究論文の作成を指導する。</p> <p>(小泉美佐子教授) 老年看護学分野の研究課題を見出し、関連文献の検討、課題に即した研究デザインと研究計画、データ収集と分析、研究論文作成を指導する。また、老年看護活動推進のために実践的な研究方法とその活用について指導する。</p>

【専門分野】

授 業 科 目 名	講 義 等 の 内 容
看護学領域特別研究	<p>(平澤則子教授) 地域看護の実践に基づく学生の関心を文献検索、クリティーク、討論を通して深化させ、研究テーマへと発展させる。学生が選んだ地域看護学に関する研究課題について、フィールド実習あるいは調査を行い、それに基づいて修士論文として完成するまで指導する。</p> <p>(坪倉繁美教授) システム化や制度化を含む看護管理学を適用させる場合は、病院に限らず介護施設、訪問看護、地域などと多様であるが、いずれの看護管理の場においても有用なエビデンスが蓄積されることを期待して、修士論文作成に向けて指導支援する。</p> <p>(水口陽子教授) 看護技術適用過程に内包している課題など、学生個々の学習ニーズをサポートして修士論文作成が完成に向かうよう研究指導教員と連携しながら指導する。</p> <p>(高柳智子准教授) 疾患や障害とともに生きる成人への看護について、学生が選んだ研究課題に対する個々の学習ニーズを支援し、修士論文として完成に向かうよう研究指導教員と連携しながら指導する。</p> <p>(飯吉令枝准教授) 地域に暮らす人々の健康と生活の質に着目し、本人・家族やその地域に暮らす人々への支援方法などに関連して、学生の関心を深め、学生が選んだ研究テーマを順次プロセスをおって支援し、修士論文が完成に向かうよう研究指導教員と連携しながら指導する。</p> <p>(酒井禎子准教授) 主に、がん看護領域ならびに緩和ケアに関わる課題について、学生個々の問題意識を特定の研究課題として焦点化すること、そのねらいに適した研究的アプローチを選択すること、また得られたデータから看護実践に寄与する知見を得るまでの分析・考察などの研究プロセスにおいて、研究指導教員と連携しながら指導する。</p> <p>(田口玲子准教授) 精神看護に関わる課題や看護職者の心理的反応・メンタルヘルスに関わる課題についての学生の関心を、文献検索、クリティーク、ディスカッションを通して洗練させ、研究課題へと発展させる。さらに修士論文作成までの過程を、研究指導教員と連携しながら指導する。</p> <p>(高林知佳子准教授) 地域看護学の講義・演習を通し、学生が感じた学問的関心を十分に発展させた上で、研究課題の決定に導く。学生の自主性を尊重しながら、研究計画立案、調査、データ分析、文献検索等の助言を行い、論文を完成させるまで研究指導教員と連携しながら指導する。</p>

【専門分野】

授 業 科 目 名	講 義 等 の 内 容
看護学領域特別研究	<p>(境原三津夫教授) 医学の進歩により、私たちをとりまく医療環境は急速に変化している。このため法的整備をはじめとして社会環境の整備が追いつかず、病気腎移植、延命治療の停止、実験的治療の実施、薬害、児童虐待など種々の医療問題が発生している。これらの問題は医学のみならず様々な領域・分野からのアプローチにより初めて解決されるものである。学生が関心をもっている問題を取り上げ、看護学がこれらの問題にどのように関わっていくべきかということの研究テーマとし、文献検索、論文のまとめ方などを含め修士論文として完成するまで指導する。</p>

7 専任教員 (平成25年4月1日現在)

分野等	職名	氏名	担当授業科目名	備考	
専門分野	看護管理学	研究指導教員 教授	坪倉 繁美	看護倫理特論 看護教育学 看護政策論 看護管理学特論 看護管理学援助論Ⅰ 看護管理学援助論Ⅱ 看護管理学特別演習 看護学領域特別研究	
	基礎看護学	研究指導補助教員 教授	水口 陽子	看護理論 看護学研究法 基礎看護学特論 基礎看護学援助論Ⅰ 基礎看護学援助論Ⅱ 基礎看護学特別演習 看護学領域特別研究	
		授業科目担当教員 講師	岡村 典子	基礎看護学援助論Ⅰ 基礎看護学援助論Ⅱ 基礎看護学特別演習	
	母性看護学	研究指導教員 教授	加城 貴美子	文献講読 母性看護学特論 母性看護学援助論Ⅰ 母性看護学援助論Ⅱ 母性看護学特別演習 看護学領域特別研究	
	小児看護学			小児看護学特論 小児看護学援助論Ⅰ 小児看護学援助論Ⅱ 小児看護学特別演習 看護学領域特別研究	本年度は 開講せず

分野等	職名	氏名	担当授業科目名	備考	
専門分野	成人看護学	研究指導教員 教授	石田 和子	成人看護学特論 成人看護学援助論Ⅰ 成人看護学援助論Ⅱ 成人看護学特別演習 看護学領域特別研究	
		研究指導補助教員 准教授	高柳 智子	成人看護学特論 成人看護学援助論Ⅰ 成人看護学援助論Ⅱ 成人看護学特別演習 看護学領域特別研究	
	がん看護学	研究指導教員 教授	石田 和子	看護学研究法 がん看護学方法論－特論Ⅰ がん看護学特論Ⅱ がん看護学特論Ⅲ がん看護援助展開論Ⅰ がん看護援助展開論Ⅱ がん看護学特別演習Ⅰ－演習Ⅰ がん看護学演習Ⅱ がん看護学演習Ⅲ 専門分野別課題実習（がんCNS） 専門分野別課題研究（がんCNS） 看護学領域特別研究	
		研究指導補助教員 准教授	酒井 禎子	がん看護学方法論－特論Ⅰ がん看護学特論Ⅱ がん看護学特論Ⅲ がん看護援助展開論Ⅰ がん看護援助展開論Ⅱ がん看護学特別演習Ⅰ－演習Ⅰ がん看護学演習Ⅱ がん看護学演習Ⅲ 専門分野別課題実習（がんCNS） 専門分野別課題研究（がんCNS） 看護学領域特別研究	
		授業科目担当教員 助教	渡邊 千春	専門分野別課題実習（がんCNSⅡ）	

分野等	職名	氏名	担当授業科目名	備考	
専門分野	老年看護学	研究指導教員 教授	小泉 美佐子	看護学研究法 老年看護学特論Ⅰ 老年看護学特論Ⅱ 老年看護学特論Ⅲ 老年看護学特論Ⅳ 老年看護学特別演習Ⅰ 老年看護学特別演習Ⅱ 専門分野別課題実習（老年CNS） 専門分野別課題研究（老年CNS） 看護学領域特別研究	
		授業科目担当教員 准教授	原 等子	老年看護学特論Ⅰ 老年看護学特論Ⅱ 老年看護学特論Ⅲ 老年看護学特論Ⅳ 老年看護学特別演習Ⅰ 老年看護学特別演習Ⅱ 専門分野別課題実習（老年CNS）	
		授業科目担当教員 助教	加賀美 亜矢子	老年看護学特別演習Ⅱ 専門分野別課題実習（老年CNSⅡ）	
	精神看護学	研究指導補助教員 准教授	田口 玲子	看護倫理特論 文献講読 がん看護援助展開論Ⅰ 精神看護学特論 精神看護学援助論Ⅰ 精神看護学援助論Ⅱ 精神看護学特別演習 看護学領域特別研究	

分野等	職名	氏名	担当授業科目名	備考	
専門分野	地域看護学	研究指導教員 教授	平澤 則子	看護学研究法 老年看護学特論Ⅲ 地域看護学方法論 地域看護援助展開論 学校保健・養護教育展開論 産業看護展開論 地域看護学特別演習Ⅰ 地域看護学特別演習Ⅱ 専門分野別課題実習（地域CNS） 専門分野別課題研究（地域CNS） 看護学領域特別研究	
		研究指導補助教員 准教授	飯吉 令枝	老年看護学特論Ⅱ 老年看護学特論Ⅲ 地域看護学方法論 地域看護援助展開論 産業看護展開論 地域看護学特別演習Ⅰ 地域看護学特別演習Ⅱ 専門分野別課題実習（地域CNS） 専門分野別課題研究（地域CNS） 看護学領域特別研究	
		研究指導補助教員 准教授	高林 知佳子	地域看護学方法論 地域看護援助展開論 地域看護学特別演習Ⅰ 地域看護学特別演習Ⅱ 専門分野別課題実習（地域CNS） 専門分野別課題研究（地域CNS） 看護学領域特別研究	
		授業科目担当教員 講師	片平 伸子	看護学研究法 がん看護援助展開論Ⅰ 老年看護学特論Ⅲ 地域看護学特別演習Ⅰ 地域看護学特別演習Ⅱ	
		授業科目担当教員 講師	藤川 あや	老年看護学特論Ⅲ	

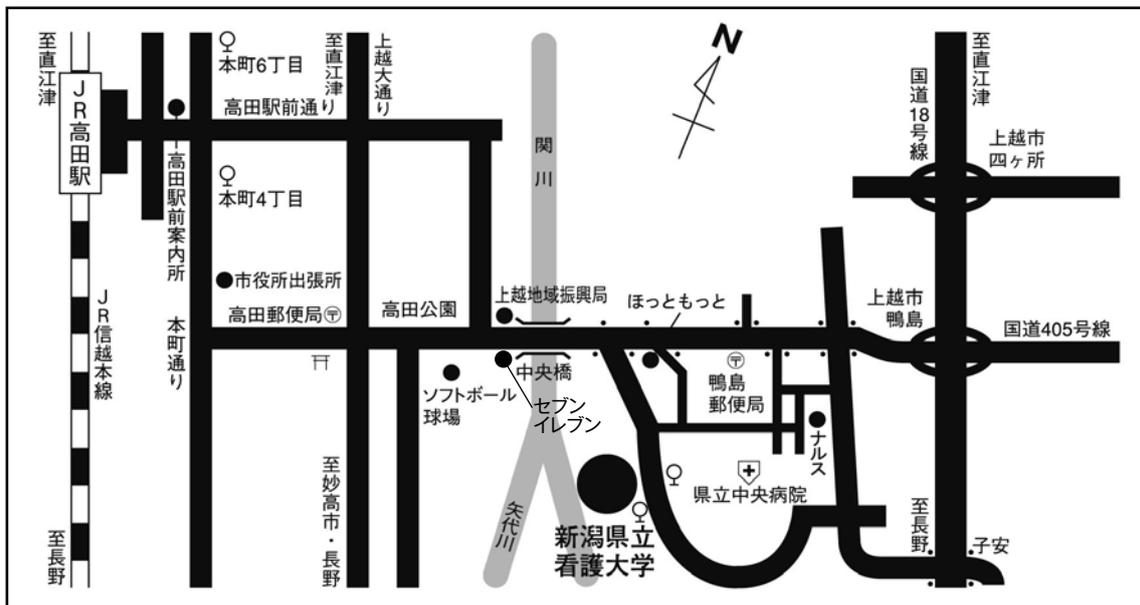
分野等	職名	氏名	担当授業科目名	備考
基盤看護分野・共通基盤分野	研究指導教員 教授	境原 三津夫	病態治療学 看護学領域特別研究	
	授業科目担当教員 教授	関谷 伸一	形態機能学特論	
	授業科目担当教員 教授	橋本 明浩	看護情報統計学	
	授業科目担当教員 准教授	中村 博生	文献講読	
	授業科目担当教員 准教授	藤田 尚	人類学特論	
	授業科目担当教員 講師	徐 淑子	健康社会学	

IV その他

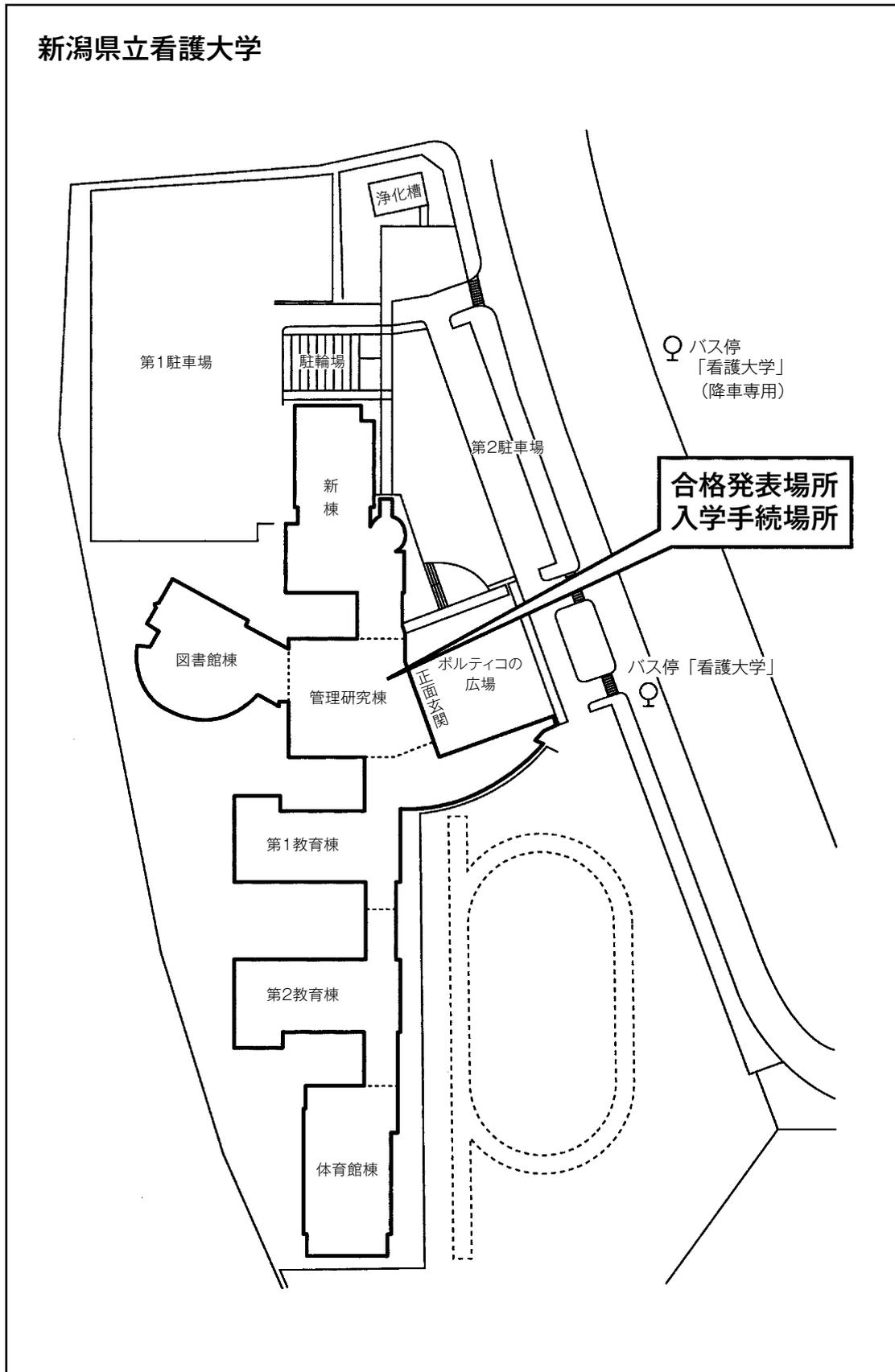
1 試験会場略図

新潟県立看護大学

- ① 所在地：新潟県上越市新南町240番地
- ② 交通案内：JR信越本線「高田駅」下車、「高田駅前案内所」又は「本町4丁目」から「上牧・宇津の俣行き」バス、又は「中央病院行き」バスに乗車、「看護大学」下車、所要時間約15分



2 合格発表場所、入学手続場所案内図



公立大学法人
新潟県立看護大学

〒943-0147 新潟県上越市新南町240番地

電話 025-526-2811(代)

Fax 025-526-2815

E-mail kyoumu@niigata-cn.ac.jp

ホームページURL <http://www.niigata-cn.ac.jp/>